

保育おおさか

平成16年11月1日 第351号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

三位一体改革を考える保育園緊急集会

厳しい情勢、危機感を持って 三団体はじめて一堂に



左から、森元参議院議員、土井支部長、竹本副会長、
武内副会長、高岡副会長

当部会の永野治男副部長（日本保育協会大阪支部事務局長）から、「基礎構造改革」より現在までの経過と今回の緊急集会の趣旨説明を併せて報告があり、開会した。

まず始めに日本保育協会大阪支部の土井加津人支部長から、日本保育協会が実施した「公立保育所の一般財源化について」のアンケート結果について、人口5万人以下の市町村では財源の削減が行われ、大変な状況になっているとの報告がされた。

次に、今回の緊急集会に駆けつけてこられた森元恒雄参議院議員が、自治省出身の立場から、地方にも税源を移譲すると格差が生まれてしまい、教育と保育は

続いて、大阪府私立保育園連盟の竹本栄副会長から、厚生労働省が調査した結果を元に、保育予算を削減するだけでなく一部の自治体では保育料の値上げが行われている現状報告がされた。

また、当部会の武内茂子副部長（大阪・全国保育士会会長）から、今回の改革は経営者だけの問題ではなく、子ども自身に関わる問題として、また、現場の保育士の問題として大変大きな問題であり、みんなが一丸となって反対しなければならぬと報告がされた。



左から、水崎副会長、山田女性部長、
門谷副会長、永野副会長

閉会挨拶は、当部会の門谷明副部長（全国保育協議会監査委員）が、これを機に三団体が一丸となって保育を守り抜きましようという強い決意を述べ、閉会した。

（花園保育園 S・M）



熱心に話を聞く参加者

全国一定でなければならない。また、国を作っているのは国民であり、合計特殊出生率が2.07を下回ると人口が減少する中で、現在の1.20を下回るようなことでは、国の存続に関わる問題であり、当然、国が行うべき政策であるのご意見をいただいた。

最後に、当部会の高岡國士部会長（全国社会福祉施設経営者協議会会長）から、最近の国の動向が報告され、本日の諸報告にあったように大変な情勢になっている今、それぞれの先生方が危

「地球の温暖化」を止めるような行動、たとえば、車の停車中にアイドリングをしない、使っていない電気を消すなど、本当に小さな事と思える行動であっても、私たち一人一人が地球のためにできることは何かを真剣に考え、努力していかなくてはならない時期がやってきたように思える。

（M・K）

熊の出没に、私たち都会の住人は直接影響を受けることはないとしても、今年の異常なほどの暑さや台風が多さはどうであろう。地球全体の異常気象を憂えずにはいられない。

熊が人里にこれほど多く出てくる原因はいろいろあるが、ひとつは例年になく台風が多く上陸したことである。どんぐりなどの木の実は風で落ち、それを一夜にしてネズミが食べてしまいい、熊の食料がなくなったためともいわれている。

近頃、人里に熊の出没が相次いでいるという。民家に入ってきたり、人を襲うこともあり、山の麓に住む人々にとっては大変な脅威であろう。



全国保育士会研究大会

「専門性」は新たな力

下関で

第38回全国保育士会研究大会が、平成16年10月20日（水）から22日（金）の3日間の日程で、山口県下関市の海峡メッセ下関で開催された。
20日は台風23号の影響で、会場に到着することができなかった参加者も多くいたが、全国各地から多数が参加し、「活かそう専門性―子育ての新たな力に―」をテーマに研究を深めた。



1日目は開会式のあと、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長の尾崎春樹さんから行政説明があり、その後、全国保育士会武内茂子会長からの基調報告、赤間神宮の水野直房宮司から「おいでませ歴史の町下関へ」と題した記念講演が行われた。

2日目は実践研究分科会が行われ、大阪からは第2分科会と今年度から新たに設けられた特別分科会でそれぞれ発表を行った。
3日目は、「今こそ考える『保育士の専門性』」と題したシンポジウムが行われた。

第2分科会

子どもが主体的に集中できる保育をめざして
―身近な素材に関わって遊ぶことにより―

みどり幼児園

小林 由実さん



発表者の小林由実さん

堺市保育士会は平成14年から「素材と関わって遊ぶ」

をテーマに研究を進め、冊子作りに取り組みました。その研究をもとに、今回の研究大会での発表に向けて、三歳未満児の発達要求に適したものの（素材）とは何か、またその素材の提供の仕方や保育士の関わり方によって子どもはどのような育っていくのかを、「身近な素材に関わって遊ぶ」子どもの姿の実践を記録し、分析し、考察していきました。さらに今年度の2か月間の実践を加え、発表内容となりました。

子どもは、一人一人今まで体験してきた生活経験や発達のレベルや性格・能力によって素材への関わり方、興味や感情の持ち方が多様であり、遊び方も異なる様子が見られました。
この実践研究を通して観察し記録した子どもたちの多くの行為は「生活の中の育ちの行為」であることが分かり、今後に向けては、もつとこのような遊びを日常的に取り入れ、物と関わって遊ぶ子どもの姿を真摯に見ていきたいと思っています。
保育士側にとっても大きな学びの場となりました。
質疑応答では、なぜベツトボルを研究材料としたのか、遊びに必要なベツトボル量は、などの質問が出ました。

最後に、助言者である東京成徳大学の今井和子教授から講評があり、研究の柱がしっかりし、その展開が具体的に分かりやすく共同研究の良さが出ていた。今後は、実践研究から課題を見出すことが大切であると話されました。
参加者が一番多く、関心の高さを強く感じる分科会となりました。
（みどり幼児園 Y・K）

特別分科会

一時保育から見える子育て支援

常称寺保育園
岩田 公子さん
中山 貴美さん



発表者の中山貴美さん

枚方市の一時保育の利用人数は年々増え、昨年は6か園で延べ11101人が利用し、現在は7か園で実施しています。
子育ての負担感やストレス解消の利用ニーズは年々高まっており、一昨年から始まったフレッシュ利用は、非定型・緊急利用に追いつく勢いで増えています。
新規利用児は、初めて保護者と長時間離れることで不安定になりやすく、継続利用児は、園生活にも見通しを持ちスムーズに過ごして、友達との輪も広がってきています。
保育の中で大切にしていることは、①心の安定を第一に考える ②一人一人の姿・発達を大切にすること ③楽しく遊ぶ ④子育て支援の親対応を丁寧にするなどです。
また、職員の連携・つながりを大切に、毎月の一時的保育会議に園長・副園長・ブロック長・一時保育担任が参加し、それを乳児会議・カリキュラム会議・時には延長保育会議に反映されています。「アレルギー児への対応」や「保護者の食や健康づくりの悩み」は、栄養士や看護師とも連携を取りながら対応しています。
保育内容としては、クッキング保育やピクニックこっこ・感触あそびや親子クッキングの保育参観や給食試食会など色々と工夫を凝らしています。運動会は100人余りの地域親子（一時保育、地域クラス）の日を設けて充実させています。
全国保育士会倫理綱領の理念をふまえ、地域の子育てセンターとして保育園が地域とかわるアンテナになり様々な親子と出会うことで、職員集団としても子育ての最前線に目を向け、日々新たな課題にチャレンジしています。子育て・子育て困難な状況が広がる中、認可保育園の役割を自覚しつつ、今を生きる保護者との新たな関係性を創造しながら今後の一時保育のあり方を探り、コミュニケーションを大切にしたいと考えています。
（常称寺保育園 K・I）

老朽改築を終えて 枚方市 青桐保育園

地域に根ざした園に

園舎の老朽化にともなう建替計画を当初平成17年度事業として申請していましたが、14年度事業に前倒しができるように枚方私立保育連絡協議会として一丸となつて行政に働きかけてくださり、府や市の理解を得て実現できることになりました。

建築にあたっては近隣への日影や工事施工に伴う事前説明、確認申請、浄化槽設置に伴う水利組合との協議、埋蔵文化財の発掘、中高層建築物協議、特定施設設置工事事前協議、敷地境界確定、現場事務所や工事



車両駐車場の確保などに随分時間がかかりました。

設計にあたっては限られた敷地と予算の中で、駐車場を確保し園庭を備え将来の事業展開にも対応できるよう園舎は3階建てとし、自然の光や風を取り入れた快適な空間にする事、子どもと保育士の動線を考慮し用途に合わせて展開できる広いスペースを持ち可動間仕切りを用いる事、子どもが触れる所に角を作らない

設計に当たっては限られた敷地と予算の中で、駐車場を確保し園庭を備え将来の事業展開にも対応できるよう園舎は3階建てとし、自然の光や風を取り入れた快適な空間にする事、子どもと保育士の動線を考慮し用途に合わせて展開できる広いスペースを持ち可動間仕切りを用いる事、子どもが触れる所に角を作らない

また、仮設を使わず旧園舎で保育しながら屋外遊戯場に新園舎を建てましたので、園舎のできあがる建築過程を最後まで見守りながら竣工いたしました。

建替中、設計上及び書類の上においても何度も苦境に立ちましたが、大阪府を始め府内の諸先生方から温かい助言やご協力をいただきました。今後新園舎を地域に根ざした施設として役立てたいと存じます。府社協を始め大阪府や枚方市並びにアドバイスをいただいた諸先生方、ありがとうございました。

■先日わたしは、教えているT学院の学生を相手に、今年も大声で怒鳴ってしまいました。

後期、最初の授業なので、久しぶりに友達と会ったのか、ワイワイガヤガヤとうるさいこと、うるさいこと。

その上、授業の途中からハイヒールのカカトを鳴らしながら入ってくる学生がいるかと思えば、コッコツと足音を響かせながら部屋から出て行く学生もいて、目障り、耳障りなだけでなく、わたしの講義はテレビカビデオが勝手に流れているのと同じようにしか認識されず、わたしの存在は完全に無視されているのです。

ムカムカしながらも30分は我慢しましたが、黒板から学生の方へ目を移した瞬間、大アキビをしている学生と目が合ってブツンと切れました。

「じゃかましい。静かにしろ」と大音声で怒鳴ると、学生たちは、文字通りフリーズ状態になり、微動だにしません。息もしていない感じます。真冬の摩周湖のような張り詰めた冷たさと静けさ、中には震えている者もいますし、何人かは失禁

「じゃかましい。静かにしろ」と大音声で怒鳴ると、学生たちは、文字通りフリーズ状態になり、微動だにしません。息もしていない感じます。真冬の摩周湖のような張り詰めた冷たさと静けさ、中には震えている者もいますし、何人かは失禁

■それにしても、最近の子どもたちや若いモンは、叱られることや怒られることに対する免疫や耐性が非常に弱くなったような印象をうけます。

病院でも福祉施設でも、先輩が親切に教えたり、注

とシゴキがどれほど役立っていることかと、鬼軍曹に感謝の日々を送っています。

■そう言えば、最近、子どもたちの無作法や悪行を、ほとんどの大人はあきらめて、叱ることも怒鳴ることもしなくなったようですし、保育園でもお母さんたちが

落語医者 保育うだうだ話

ルールとマナーを教えよう

したのではないかと心配したほどです。

毎年、初回の授業でこのセレモニーをするおかげで、次回からの出席者は半分に減り、聞きたい学生だけになりますので、わたしもラクですし、熱心な学生たちも静かに授業が聞けて、きつ

と喜んでいるに違いないと

意したりしているのに「怒られた」と不満を言ったり、ひどいものになると「イジめられた」と訴える新人職員もいる始末です。

わたしなどは、不勉強で出来ない医者でしたから、最初の何年かは、先輩に怒られてばかりでしたが、今

となつては、あの時の指導

子どもに、ルールやマナーについて教えている姿は、あまり見られなくなったような気がするのです。

これは、子どもに優しいということでも、子どもの自由を認めているというこ

とでもなく、子どもをバカにしているのか、あるいは、大人が義務を放棄している

のかのどちらかではないかと思うのです。

子どもたちは、まだまだ発展途上人なのですから、かれらに、社会のルールやマナーを教え、それらを守れば、自分も他人も快適に楽しく社会生活が営めるということを幼い時期から身につけさせることが、大人の責任でもありますし、ルールやマナー違反に対しては、時には叱ることも必要だと思ふのです。

そして、この教育はできるだけ早期から、やさしく、ていねいに繰り返すことが大切で、そうすれば、怒鳴ったりすることもなく、簡単にしかもスムーズに子どもたちに伝わり、子どもたちの一生の宝になると思うのですが…。

(英)

保育部会 常任委員会 報告

平成16年10月5日(火) 午後2時～

- 中央情勢について
- 「私立保育所運営費等の国庫補助負担金削減に反対する要望活動」について
- 保育海外研修について
- 大阪府社会福祉施設人権活動推進協議会の加入案内について
- その他

